

それはホロコーストの“リハーサル”だった ～障害者虐殺70年目の真実～ 語り：大竹しのぶ

NHK 総合テレビで 放送決定！

2016年 1月30日(土) 15時50分～16時50分

昨年11月に放送されたETV特集「それはホロコーストの“リハーサル”だった～障害者虐殺70年目の真実」は、視聴者から大きな反響がありました。この《完成版》が総合テレビで放送されます。

☆11月のETV特集 ⇒ <http://www.nhk.or.jp/etv21c/archive/151107.html>

600万人以上のユダヤ人犠牲者を出したとされるナチス・ドイツによるホロコースト。しかし、ユダヤ人大虐殺の前段では、いわば‘リハーサル’として、およそ30万人の、精神や知的に障害のあるドイツ人らが殺害されていたのです。終戦から70年もの年月が経った今、ようやくこの事実に向き合う動きが始まっています。きっかけの一つは2010年、ドイツ精神医学精神療法神経学会が長年の沈黙を破り、過去に患者の殺害に大きく関わったとして謝罪したこと。学会は事実究明のために専門家を入れた国際委員会を設置し医療の進歩を信じた‘革新派’の医師達がいかにして殺人に自主的に関わるようになったのかなど2015年秋、報告書にまとめました。

こうした事実に触れ、「あの時代だったら自分も殺されていたかもしれない」と語るのは、日本障害者協議会代表として障害者の課題と向き合ってきた藤井克徳さん（自身は視覚障害）。藤井さんとともにホロコーストの“リハーサル”がなぜ起きたのか、それを止めようとする人たちはいなかったのか、そしてなぜ今まで沈黙が守られてきたのかを明らかにします。

障害者虐殺に関わった医師、運転手、焼却人などの多くが、のちにユダヤ人虐殺のために収容所に送り込まれ、効率的にユダヤ人を殺すノウハウを伝授する役回りを果たしていたことを、新たな取材で掘り起こした写真などで伝えています。



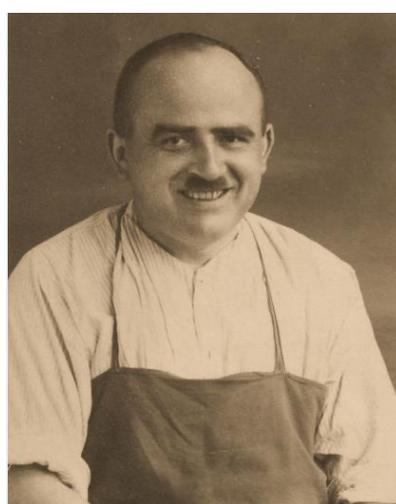
ガス室のあったハダマー精神科病院地下



藤井克徳さん、犠牲者遺族とお墓へ



てんかんのためT4犠牲者となったヘルガ・オルトレップさん(右)



パーキンソン病でT4犠牲者となったマーティン・バーデルさん